



京丹後に棲む  
絶滅危惧種のハヤブサ

# ハヤブサ

ニュース No.8 2

2023. 3. 15

発行 米軍Xバンド レーダー基地反対・京都連絡会

連絡先 〒602-8347 京都市上京区四番町121-5 大湾 宗則

電話&FAX 075-467-4437

郵便振込座 00950-9-303127 名義 京都連絡会



## 関西生コン弾圧・2つの判決

(文責 瀧川)

### ①許しがたい実刑判決

#### 3/2 大津地裁 コンプライアンス第1事件

大津地裁刑事部の畑山靖裁判長は、関生支部の湯川委員長に懲役4年の実刑を、ほか4名に懲役3～1年、執行猶予5～3年という重罰判決を言い渡した。組合側は即日抗告した。

この一審判決は、「ずさんな事実認定」「労働基本権と労働組合活動に対する無知」「警察・検察の筋書きを鵜呑み」ということに尽きる。弁護団はこの判決に対し、声明を発し3点を糾弾している。

1. 判決は憲法28条を顧みない。 2. 判決は建設現場の違法行為を助長させる。 3. 判決は杜撰で予断に満ちている。産業別労働組合の組合活動を犯罪視する予断と偏見をもって書かれた判決だといえる。

### ②逆転無罪判決

#### 3/6 大阪高裁 和歌山広域協組事件控訴審

「原判決を破棄する」「被告人らはいずれも無罪」判決に法廷内は歓声と大きな拍手に包まれた。裁判所前で待機していた組合員や支援者に赤字で「無罪」と書かれた旗を掲げた坂田副委員長の満面の笑みがとても印象的

であった。

この事件は2017年8月、和歌山広域協組の代表者が、元暴力団員らに関生支部の組合事務所に差し向けて威嚇したことに對し、関生支部が事実関係の釈明と謝罪を求めた行動が強要未遂と威力業務妨害だとされ、2年後の2019年7月に組合役員ら3人が逮捕、起訴されたもの。一審和歌山地裁は、武谷書記次長ら3人に有罪判決を出していた。

高裁判決の特徴は、第1に、一審判決の事実認定は「事実経過の一部だけを示威的に取り上げた偏ったもの」であり、許容できないと批判したうえで、一審判決が依拠した元組合員の証言を信用性に疑問があると繰り返し強く否定したことである。

第2に、産業別労働組合の労働基本権保障と刑事免責について、「産業別労働組合である関生支部は、業界企業の経営者・使用者あるいはその団体と、労働関係上の当事者にあたるというべきだから、憲法28条の団結権等の保障を受け、これを守るための正当な行為は、違法性が阻却されると解するべきである」、また、被害者とされた和歌山広域協組代表者の下へと「抗議等に赴くことは、それが暴力の行使を伴うなど不当な行為に及ぶものでない限り、労働組合が団結権を守ることを目的とした正当な行為として、労組法1条2項の適用又は類推適用を受けるといふべきである」との判断を示したことである。

産業別労組の労働基本権保証と刑事免責について、まっとうな判断が示されたといえる。



逆転無罪勝利に歓喜

## 京丹後訪問活動への参加を



ゲート前での抗議

岸田政権の戦争政策は、東アジアの緊張をあり、米軍 X バンドレーダー基地のさらなる強化をもたらします。基地の監視体制も強まっています。軍事優先の社会では、住民の「安全・安心」は犠牲にされます。昨年 11 月の網野町三津での米軍関係車両による人身事故の隠ぺい問題は、米軍・防衛局の住民軽視の姿勢をあらためて示しました。京丹後市も住民を守るための責任ある行動をとっていません。

京丹後市 3 月議会の会期中だった 3 月 10 日の京丹後訪問では、これらの問題に抗議し、京丹後市役所前で昼休み時間のアピール行動を行い、基地対策室に申し入れ書を提出しました。市役所前では前日に議会での代表質問を終えた永井友昭さんも激励に駆けつけてくれました。

レーダー基地の存在が東アジアの緊張を煽るものであること、戦争が起こればレーダーは真っ先に攻撃の対象となること、基地の存在が地域の住民に様々な被害をもたらすことは、このかんの情勢と経験が示しています。京都市内と京丹後を結び、米軍 X バンドレーダー基地撤去の声を広げていきましょう。京丹後訪問への参加を呼びかけます。

### <当面の京丹後訪問日程>

3/17 (金)、4/7 (金) いずれも午前 8 時 30 分、  
鴨川五条大橋西詰 GS 前集合  
(参加予定の方は事前連絡をお願いします。)

池田 090-7108-5508)



京丹後市役所前でのアピール行動を終えて

## 「街なかピラ」の報告と

## 今後のお知らせ

(文責 白井)

2023 年 2 月の報告

第147回 2月14日(火) 東山三条周辺 8人

急にアラレが降ったり、薄日が差したりの天候でしたが、何とか「街中ピラ」の行動ができました。

### <街の人の声>

- 戦争になろうとしてるのにピラを受け取る人が少ないね〜。若い人はもっと考えんと… (中年女性)
- (東京から来たという40代位の2人) ピラを見てびっくりした。京都に米軍基地があるとは知らなかった。東京にも横田基地があって大変だ。
- 攻める、攻められるではなくても、この国を守る人は必要だ。自衛隊の待遇をもっと良くしないとね。(1933年生まれの女性)
- スーパー前で。<店>許可は取ってるか? (連) 許可は要らない。公道だ。<店が警察に通報して警官が来る> (連) 警官に公道であることを確認すると、警官は「店の敷地ではない」と。(連) 営業の邪魔もしていない。表現の自由で裁判所の判断も出ている。<警官は離れたところで何やら携帯で話しながら時間待ち?> (連) 時間になって引き上げた。



2023年3月の予定

第148回 3月14日(火) 堀川三条商店街 終了

※報告はハヤブサ4月号になります。

第149回 3月23日(木) 出町商店街 周辺

集合場所: 河原町今出川交差点 東北角

時間は11:00 ~ 12:00 です。

暖かくして無理のない体調でご参加ください。

連絡先: 090-5672-1597 (白井)

# 「島々を戦場にさせない全国集会in石垣島」に参加して

報告 大湾宗則

**3月例会のお知らせ**  
**石垣島・全国集会の報告**  
3月21日(火・休日) 18:30  
ひとまち交流館・京都 第一会議室

報告者 大湾 宗則  
大湾みどり

No Base!沖縄とつながる京都の会  
米軍Xバンドレーダー基地反対京都連絡会



中央の幟が「京都連絡会」の幟です。

石垣島の「市民団体」からの「島々を戦場にさせない!全国集会」のよびかけに応じて・

「石垣島に軍事基地を作らせない市民連絡会(市民連絡会)」から「島々を戦場にさせない!全国集会 in 石垣島」が全国に向けて呼びかけられた。私は、No Base!沖縄とつながる京都の会と米軍 X バンドレーダー基地反対京都連絡会に「石垣島の呼びかけに応じて代表派遣すべし」と提言し、自ら参加する旨申告した。

両組織の運営委員会は代表派遣することを確認し、会員に呼びかけを發したが、準備期間が極端に短く、結果、両組織に所属する大湾宗則と妻・みどりの二名で派遣団を構成した。

## スケジュール(行程表)

**3月3日**、運営会議後、神戸空港⇒那覇空港(泊)  
**3月4日**、那覇空港⇒石垣島空港⇒石垣港⇒宿舎に荷物預けてフィールドワークへ(レンタカーに分乗)⇒パンナ公園鳥観察展望台から於茂登岳麓(平得大俣地区)に建設されている陸上自衛隊石垣島駐屯地全景を展望した。

「市民の会」藤井幸子事務局長「水の汚染、騒音など環境破壊、それによるカンムリ鷲の営巢

への影響、生活圏近くにミサイル基地と弾薬庫の配備を厳しく抗議する」と説明がなされた。

続いて大里農道を辿って完成間近な陸自石垣島駐屯地を見学、門前には既に衛所があり、自衛官が詰め、周りに警備員。

フィールドワークを終えて於茂登公民館で主催者による報告集会がもたれた。

集会場には全国から参加した団体の幟が会場に張り巡らされた。「市民の会」を代表して嶺井善さんが戦後開拓移民として於茂登集落で苦しい開墾の末、耕した土地、生活の糧・住まい、家族を守るため、ミサイル基地反対の抗議を続ける」と決意を述べた。全国各地からいくつかの発言があり、京都からは、石垣島から全国集会を呼びかけたことに敬意を表し、No Base!沖縄とつながる京都の会、米軍 X バンドレーダー基地反対の立ち上げて「沖縄にも京都にも、どこにも基地(安保)はいらない」を基調に掲げて闘ってきた報告、「この全国各地が集う闘いを機に反基地の全国ネットワークづくりに努めましょう」と訴えた。集会の終わりに「明日(3/5)、建設途上の基地に 200 台の軍用車両に装備品を載せて基地に搬入するとの情報あり、早朝 5 時に石垣港ゲート前に集合してください」との訴えがあり、全員確認して解散した。

この日、夕食は、居酒屋で同宿の人々と交流会となった。

## 戦争への道は開けない! ゲート前での攻防!

**3月5日、早朝5時**。真っ暗、幟を立てて全国の仲間が石垣港のゲート前結集。夜が白み始め、待つこと 2 時間。自衛隊員がゲート前で「道を開けてください」と繰り返す。私たちは「戦争への道は開けない!」、とゲートを封鎖。県警との攻防、県警がゲート横の道路沿いにバリケードで仮「留置所」づくりが始まる。

7:45AM、県警の強制排除始まる。精一杯抵抗をつづけるも多勢に無勢、実力で「留置所」に隔離軟禁される。

搬入は第一次、第二次と二回に分けて行われた。ゲートが開かれ、12 式地对艦ミサイル発射装置を搭載した車両や通信その他石垣島駐屯地に必要な装備品のほとんどが 200 台のトラックに載せられて公道を車列を連ねて駐屯地に向かった。

**3/5 13:30 神楽公園で「島々を戦場にさせない! ~ミサイルより戦争回避の外交を~全国集会 in 石垣島」**が石垣島内外から200人の結集で幟の林立する中で開催された。

主催者や地元、幾つかの団体、命とくらしを守るおばあちの会の発言、山城博治さんも「基地建設を許さない全県組織の立ち上げ」を訴え、宮古島の清水早子さんは「軍拡の嵐に立ち向かい、全国一丸となって闘おう」と発言した。

14:30 から石垣市のメインストリートでデモを行った。

みどりさんが杖をつきながら No Base! の幟を持ってデモしていたが、歩行困難を見かねて山城博治さんが No Base! の幟を最後まで持ってデモ行進してくれた(感謝感激)。神栄公園に戻り、アピール採択して解散した。

**3月6日**、当初、3/5～3/6の二日間、陸自装備の搬送予定だったが、3/5に二回続けて搬入して完了したため、3/6は空き日となった。

午前中、高橋年男さん夫妻のレンタカーに同乗させてもらい、石垣島の日本基督教会に立ち寄り、キリスト者の基地反対の取り組みを資料に沿って聴いた。その後、川平湾を展望し、珍しい蝶との出会いの後、高橋さんに頼んで大浜海岸に建立されている「オヤケ アカハチ」像に立ち寄ってもらった(オヤケ アカハチに関する琉球史は3/21の報告会で話します)。

この日の午後、石垣島から那覇に戻り、その夜、故郷に帰っている沖縄県人会や沖縄ファンクラブの友人と久しぶりの再会を楽しんだ。

### 辺野古弾薬庫が拡張されている!

**3月7日**、朝 9:00 沖縄県庁前から「那覇島ぐるみ会議」担当の辺野古行きのバスに乗り込む。

辺野古に着いた途端、「第四ゲートに弾薬庫拡張工事車両が搬入するので阻止・抗議に行こう」と呼び掛けられ、二つ返事で第四ゲートへ。

参加者は10数人、県警に取り囲まれ、実力排除され、資材搬入を許す。数が足りない。

キャンプ・シュワブ正面ゲート前のテントに戻り、参加者相互の報告集会があり、No Base! 京都の会と No X-Band 京都連絡会の現状報告、そして沖縄、日本の反戦・反基地闘争は、被害を強調して加害者であることを忘れがちだが、「ベトナム戦争時にベトナム人民から沖縄島を『悪魔の島』と批判されたことを忘れず、又、72年沖縄返還時に『返還協定糾弾、自衛隊配備反対、安保廃棄、ベトナム人民支援』を掲げて闘った地平を思い出し、改めて反戦・反基地・反安保の闘いの再構築が必要」と訴えました。

、午後から切り上げて帰京した。

(詳しくは、3/21の報告会で映像と資料で行います。ご参加よろしくお願ひします)。

# 島々を戦場にさせない! ミサイルより戦争回避の外交を 全国集会 in 石垣島 参加報告 大湾みどり

3月4日 現地案内 (フィールドワーク)



建設前の於茂登岳麓 平得大俣地区

那覇空港から一時間で石垣空港到着。きれいに刈り込まれた街路樹が両サイドに続く道、「白保」のバス停を通過しながら市街地に到着。

14時から東京から来たY、Iさんのレンタカーに同乗し現地案内のパンナ公園に集合し、受付を済ませ渡り鳥観察所の高台に。ここから新しく建設されている陸上自衛隊石垣駐屯所(仮称)全貌を見、規模の大きさに驚く。



3月16日工事完了18日ミサイル弾薬搬入突貫工事中

同時に石垣島のここから見渡せる遠くの山々。手前に広く、しかも整備された耕作地。ダム湖は全部で5カ所で、ここからは2カ所見える。豊かな水源、川の多さを沖縄島と比べる。於茂登岳(526m)に連なる山々の裾野を

削って新基地が建設されている。住民の生活の場、農地、牧草地の上に基地が蹂躪しているように見える。

次は大里農道から排水工事が未解決だと説明を受ける。大きく黒い配管が見える。ここを通過して排水はどこに行くか説明がないと。それと奥間さんが調整池工事に不備があると指摘。基地の正面には警備、工事で働く人と哨所には銃を持った自衛隊員が2人。

## 交流会

16時から近くの於茂登公民館で交流会。参加は70人。「石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会」代表の一人で、基地から350mの所に住む嶺井さんの発言は、日清戦争後土地を取られた台湾の人々が移り住んで開拓した。そして第2次世界大戦後沖縄島の南条、玉城、北谷、与那国から移住してきた人たちによって切り拓かれた。その後沖縄県はこうした計画移住は、マラリヤ撲滅、生活環境整備が大事と打ち切りになって現在に至る。基地建設について石垣市長、防衛省は住民の声を聞かないし対応してくれなく、3回目の琉球処分かなど。

名倉川のマングローブを守る活動をしている人の発言は、有事を前提に進められる軍事力強化や住民避難計画について、畜産農家は有事だとなっても牛をおいて避難できないと聞いた。また入植した地を離れられない農民もいると。まるで有事が現実味を帯びたかのように住民にすり込まれていることが気になった。

2021年から自らドローンで映像をとり基地に近い開南集落の変化を見てきた上原さんは、この集落は弾薬庫から330mしか離れていない。基地は於茂登小学校から2.2kmの距離にできると。住民生活が知らないうちに脅かされてきたと。

宮古島から参加した人の発言は、宮古は2019年ミサイル配備の自衛隊基地開設で、政府は有事をあおり、自衛隊は自分らだけ地下シェルターをつくり、住民はどうすればいいのか。また自衛隊員が同じ地域社会に住み、隊員による大麻使用、飲酒運転が起り、隊員の妻による子殺しが起き、島の生活が変わった。そこで基地反対闘争として地元では、隊員が勤務外で迷彩服等制服を着て歩いていたら「迷彩服で歩くな」と言う。とにかく隊員の居心地を悪くさせようとしている。

石垣は3月16日開設予定だが、その日にはセレモニーが行われるはずだから騒いだほうがいい。宮古でも騒いで意思表示をしたと。沖縄島からは「沖縄島の人が南西諸島の現状を知らない」ことが問題だとの発言もあった。

## 3月5日ミサイル関連車両等

### 搬入阻止行動

早朝5時にミサイル発射機車両を含む軍事車両が仮置き場から新基地に搬入されるのを阻止するために集合。日が昇り始めた7時頃搬入車両が出てくる所が開き警備員が並ぶ。私たちはその前に旗を持って立ち、それぞれに抗議の声を上げた。警察は着々と路上の囲いをつくり、私たちをそこに追い込もうと準備した。それから自衛隊員がやってきて「ここをあけてください」と。繰り返す、こちらも抗議の声を上げ続けたが1人ずつ排除され、交通量も多い中一般車両の間に入って新基地に向かって出ていった。その間宮古の人が出て行く車両の説明をしてくれた。一度目の搬入が終わって宿泊先に戻ってまもなく次ぎは10時頃だと連絡が来た。二度目は車両を数えようと囲いこまれたオリから77~8台まで数えた。新聞には150台とも200台とあったが、この日は150台位だろう。

基地を作らせない市民連絡会としては阻止行動は共にしませんと搬入の前に代表が言って、道路を隔てた歩道でスタンディング。

## 3月5日島々を戦場にさせない！ 全国集会 in 石垣島



### 集会後、デモ行進

会場は新栄公園で参加は200人。3月初旬の日差しはじっと座っていると服の上から刺すような暑さだった。

宮古の清水早子さん発言「怒濤のように軍拡の嵐が押し寄せている。私たちは島々、県境を越えて全国一丸となって戦争を止める戦いをしないといけない」

山城博治さんは「私たちの島、私たちの命だ。沖縄中が団結して決意を示し、その力で政府の暴挙を止めよう」（沖縄タイムスより引用）

また子育て中の仲間とともに活動している人等の発言が続き、高齢の「いのちと暮らしを守るオーバーたちの会」からは街中でスタンディングを定期的に続けているという会の85歳の山里節子さんは決意と想いを歌ってくれた。

最後に政府に戦争回避の対話と外交を求めるアピールを拍手で決議した。

デモが出発し、隊列に対する住民の反応は薄いように見えた。出発してまもなく山城博治さんが私の持っているNo Baseの旗と杖（用心のために持っている）を見て「いたたまれなかった」と旗を持ってくれた。

### 3月7日辺野古

9時発の県民広場前からのバスに乗り辺野古へ。曜日ごとに担当者もほぼ同じ人のようで、同乗する人も顔見知りが多いよう。車内では自己紹介等が始まった。出発前に名前を書くので京都からとわかると話しかけてくる人がいた。京丹後の永井さんと労働組合のお仲間だったのは村上さん。退職後移住して那覇で三線カフェをやっていると名刺をもらう。

10時半ちょっと前に到着。第4ゲートの変容ぶりを見せてもらう。生い茂っていた木々は伐採され道路側から大浦湾を望める。弾薬庫も拡張されているのが見える。胸が痛い。すぐにトラックが入るそうでゲート前に立つ。わずかな時間で排除され20台弱のトラックが入っていった。その後テントに戻り参加者の発言が続く。そんな時トラックが入るとゲート前へ簡易のいすを持って座り込む。路上にはトラックが長い列をつくって待機している。少しでも時間かせぎをしたいので、それぞれが警察官に抵抗するがあつという間に排除された。トラックが入っていくのをボードを持って抗議する。帰りのバスの時間が迫ってき、挨拶をしてバス停へ向かい辺野古行動を終える。



辺野古 キャンプ・シュワブゲート前で座り込み

## 韓国・THAAD 反対 アリバイづくりの「住民説明会」を阻止

池田高巖



韓国の尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権は、バイデン政権や岸田政権思惑と結んで、米韓および日米韓の軍事協力をおし進めようとしており、その一部として、THAAD 基地の「正常化」を急いでいる。

抗議行動に立ち上がる多く人々の排除して、THAAD（X バンドレーダーと迎撃ミサイルからなる）が韓国のソソン里に配備されたのは 2017 年のことだった。しかし、地元・ソソン里の住民をはじめとした抵抗は続き、基地整備のための工事は遅れてきた。

尹錫悦政権はその発足直後から、一方では強引な工事資材の基地内搬入を繰り返し、他方では基地の本格的整備に向けた前段階の作業として環境影響調査報告書の作成を急いできた。その草案ができあがり、3月2日には韓国国防部が地元での「住民説明会」を開催を予定していた。

しかし、住民たちは会場をふさぎ、「説明会」を阻止した。それが、住民に意見を聞く場ではなく、THAAD 基地の本格工事への着手に向けたセレモニーにすぎないことを知っているからだ。

住民たちを支援する THAAD 基地撤回平和会議は、「THAAD の韓国への配備は基本的に違法だ。韓国領土を米国に供与するには最小限これに合意する条約や協定など国際法的文書がなければならない。

今日の環境影響評価説明会もやはり事前に進めるべき環境評価を THAAD 配備後に行うもので、これを根拠に THAAD 基地の正常化を云々するのは話にならない」と主張している。

住民の体を張った抵抗は続いている。そのために米軍が陸路を使わず空路でしか基地に入れられない状況も続いている。ソソン里住民をはじめ THAAD 配備撤回をめざす韓国民衆の闘いに連帯しよう。